

長期ステロイド使用後の全身浸出症状から社会復帰へ至った成人アトピーの経過 (28 歳)

症例 ID：001-20-KE | 記録日：2018 年 4 月 8 日

1. 診断・治療前経過

保育園頃に卵白で赤みとかゆみが出ましたが、成長とともに一度落ち着きました。中学以降、膝裏や下着が擦れる部位にかゆみが出て、ステロイドを使用する生活となりました。大学期には顔と体が赤く熱を持ち、手掌に水疱が出ました。点滴治療、抗アレルギー薬、ステロイド外用などを続けても、治療間隔が空くと悪化しました。社会人 5 年目には頭皮、足背、鼠径部へも広がり、プロトピックも使用しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	中学以降、膝裏、肘、顔、体などにステロイド外用薬を反復使用し、成人期にはプロトピックも使用しました。
製品名	製品名は不明です。プロトピックの使用歴があります。
強度	不明です。
使用期間	中学期から松本医院受診まで長期間です。
中止時期	松本医院受診時に中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
中学期	ステロイド開始	膝裏や擦れる部位の症状に外用ステロイドを使用しました。
大学期	悪化	顔と体の赤み、熱感、手掌の水疱が出て、点滴や内服、外用治療を受けました。
社会人 5 年目	再燃	頭皮、足背、鼠径部へ症状が広がり、外用薬が効きにくくなりました。
治療開始後 1 か月	ピーク	38℃台の発熱、悪寒、リンパ節腫脹、耳下・腋窩・鼠径部からの浸出液、強い不眠が続きました。
開始後 2 か月	初期変化	寝たきりの生活から外出できるようになり、入浴後の処置を自分で行えるようになりました。
開始後 3 か月	生活変化	退職して治療に専念し、腋窩と鼠径部の浸出液が止まり、関節の動きが広がりました。
開始後 9 か月	社会復帰	入浴回数を減らせるようになり、週 3 回程度の仕事を始め、結婚式と新婚旅行を行いました。
開始後 15 か月	再受診	除光液使用後に首、顔、手の甲へ掻破痕が出て、半年ぶりに治療を再開しました。

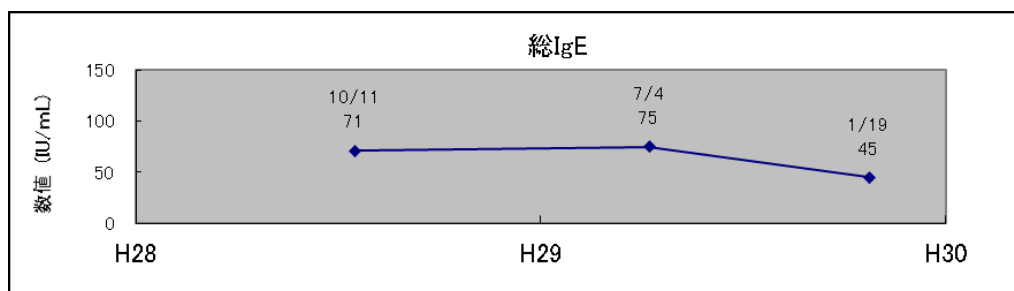
4. ピーク時期

ピークは、治療開始後 1 か月に、38℃台の発熱、強い悪寒、全身の浸出液、夜間の不眠、寝たきりの状態が重なった時期です。

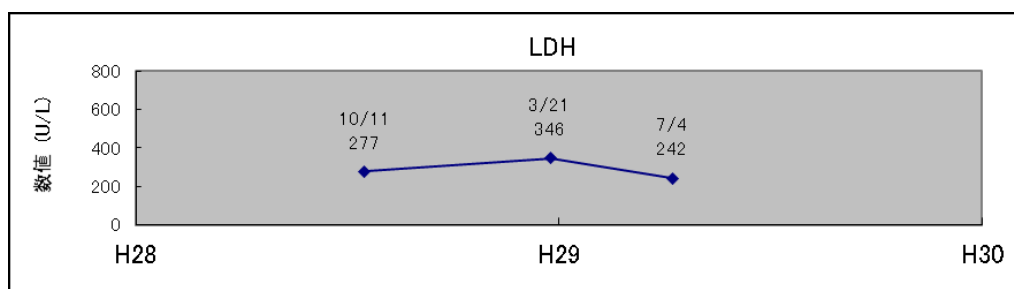
5. 困りごと

- 全身の浸出液で下着や寝具が濡れ、夜中にも交換が必要でした。
- 発熱、悪寒、痛みで座ることや首を動かすことも難しく、家族の介助が必要でした。
- 治療に専念するため退職し、生活と仕事を大きく調整しました。

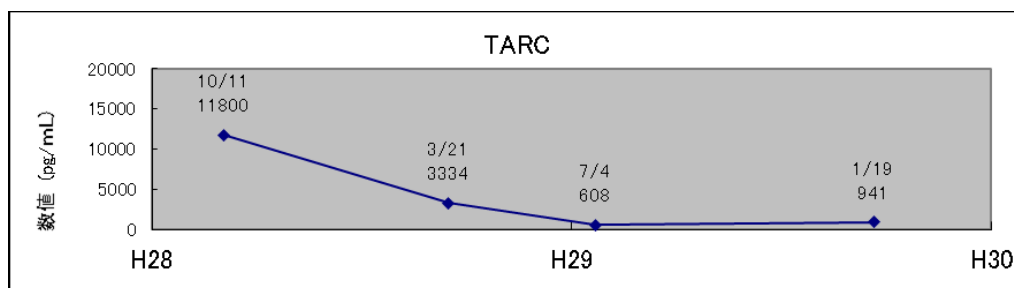
6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



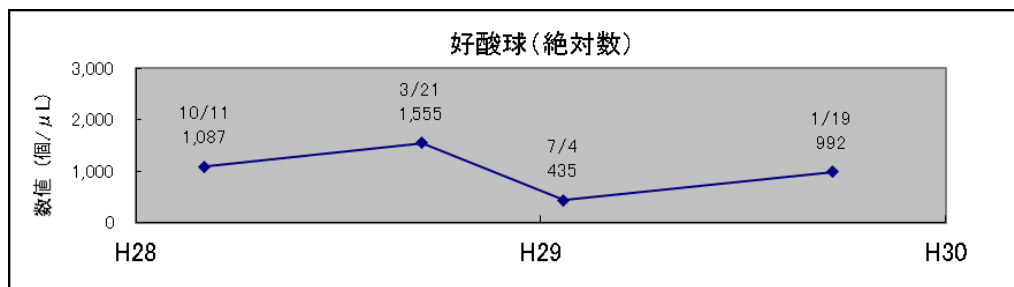
総IgEの推移を示すグラフ。



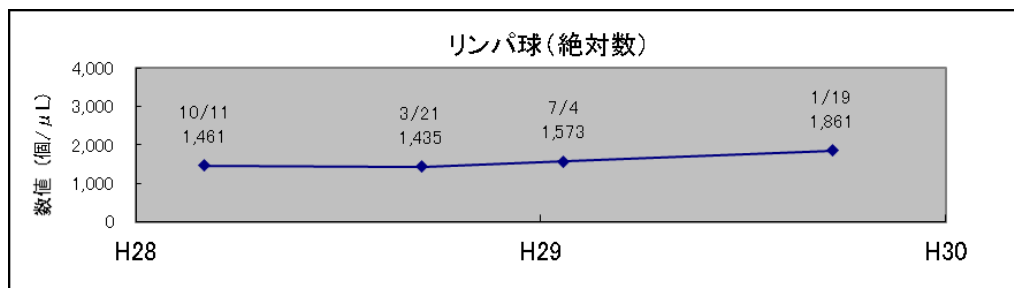
LDHの推移を示すグラフ。



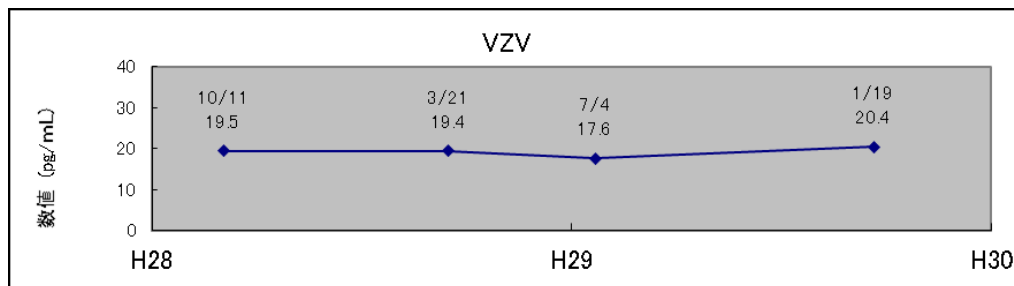
TARCの推移を示すグラフ。



好酸球絶対数の推移を示すグラフ。



リンパ球絶対数の推移を示すグラフ。



VZV 抗体値の推移を示すグラフ。

7. 経過のまとめ

治療開始後 1 か月は発熱、悪寒、全身の浸出液、不眠が続き、寝たきりとなりましたが、2 か月目には外出と自分での処置が可能になりました。

3 か月頃には腋窩と鼠径部の浸出液が止まり、9 か月頃には週 3 回程度の仕事を始め、結婚式と新婚旅行を行えるまで生活が戻りました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。